

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000336		
法人名	有限会社 風		
事業所名	有限会社 風 グループホーム たんぽぽ		
所在地	佐賀県久保多町新田3475番地5 (電 話) 0952-68-2062		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年1月16日	評価確定日	平成 21年2月16日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7,8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	39,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低 76 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ひらまつ病院・下平歯科久保田診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のんびりとした田園の中にあるり、新興住宅にホームが立っている。屋内はリビングから、すべての居室入口からウッドデッキまで一望できる。広いウッドデッキはリビングから出入りができ、入居者が洗濯干しや畑の野菜の成長など見ることができる。運営者が育った地域であるため、地元の人々との信頼関係もできており、地域の行事へ参加するなど、地域社会との関わりを大切にしている運営がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市との連携、職員を育てる取り組みなど、できるところから、改善に取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員各人で評価し、会議で全体の評価としてまとめている。評価を良い機会と捉え前向きに取り組まれている
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター職員、民生委員、地域の代表、家族の代表、入居者代表を集めて年に2回開催されている。サービスの質の向上に向けたアイデアを会議参加者から聞くなど、一緒に作り上げていくような発展した機会になるように期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見を言いやすいように、職員が参加しない家族会をするなど、積極的に家族の意見を聞き、運営に反映させていく姿勢がみられた。意見は、職員で話し合い、書面で家族全員に配布している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加し、自治会費の集金や回覧板回しなどしている。また地域の文化祭に参加し入居者の作品を出品したり、中学生の職場体験の受け入れをしたり、地域と連携を取っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由にきままにふわふわと・・・」、「ホームに籠もらず地域社会との関わりを大切に」を独自の理念として掲げ、運営されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに理念を掲示し、事ある毎に振り返り、考え行動に移し取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、区費の徴収に入居者と出向いたり、地域行事への参加、文化祭の出品などされている。また、中学生の職場体験の受け入れをし、地域の人々との交流をされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価に取り組み、意義が理解できるように話し合っている。評価をすることで業務を見直し、改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	会議の内容はホームの報告をするなど年に2回ほど行なわれているが、議題の設定を思案している。会議を運営の質の向上につなげるというところまで活用できていなかった。	○	サービスの質の向上に向けたアイデアを会議参加者から聞くなど、一緒に作り上げていくような発展した機会になるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1度は支所に行き、担当課と情報の交換をされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真付の新聞で報告し、担当が入居者の状況を書き添えている。健康状態に変化があった場合は、必要に応じて報告をされている。また面会時にも報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を積極的に行なっている。玄関口に苦情箱や相談機関の紹介もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来ほとんど離職はなく安定して運営されている。働きやすい職場作りに努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度勉強会を行なっている。外部の勉強会には勤務として参加できるように配慮されている。また、研修報告会を開催することで全員への周知が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会や研修会、他のグループホームとの交流で情報交換はされているが、管理者レベルでの交流にとどまっている。	○	管理者から職員同士の交流となるように、交流を今後も続けられ、発展されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に十分に時間を取り、入居者が環境の変化に戸惑われないよう家族と相談し、支援がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の家事等を入居者と共に行い、職員が教えられたり、入居者同士で支えあうなど支援されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が意見を言いやすい環境を作ったり、生活歴・性格・表情の観察で意向を汲み取るようにしている。また、会議等で本人の意向を検討するなどされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・本人・職員の3人で面談を行い、意見を把握し、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から6ヶ月の期間を設定し、その都度見直しを行っている。状況の変化等がある場合も、検討会を開き適宜見直しをされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や美容室利用等、家族が対応できないことをホームがカバーして柔軟な対応をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方でも希望があれば主治医は継続している。緊急の場合は近くの病院も利用でき、また往診の対応もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルを作成し勉強会で認識を深め、医師の対応、家族の希望等についても把握されている。また、ホームのできることでできないことについて、説明がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ・入浴の場面で羞恥心を守るように努めている。また、個人情報は事務室で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のメリハリを大切に、食事と入浴時間はある程度設定しているが、入居者の希望やペースに合わせ、臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びから調理、片付けまで、入居者の得意なことが発揮できるような支援をされている。また、職員も一緒に同じ食事をするすることで、楽しい食事時間となるよう取り組まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気の合う方同士で入浴を楽しまれたり、入居者のタイミングに合わせて入浴を促すなど、個々の状況に応じた入浴支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なこと好きなことを行うことが役割や楽しみになっている。また、外出する機会を多く持つことで気分転換ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・通院等日常的に外出をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に入居者の所在の確認を行ない、外出される時は職員が付き添うなどし、施錠をしないケアを実践されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、通報訓練や避難訓練など、ホーム単独で夜間を想定した訓練を行なっている。	○	消防署の立会いのもとでの訓練を行なうことで、専門家の助言を仰いだり、有事の際の地域の人々の協力が得られるように呼びかけを行なうなど、今後の働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握を行い、少ない入居者には嗜好を考慮し、摂取量の確保に努められ、個人の状態に合った形状で食事を提供されている。また、一日6回(食事やおやつ等)の定時の水分摂取の機会を作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光はブラインドでこまめに調整されている。季節に応じた机の配置や季節感を味わうことのできるような飾りつけなど、変化をつけたり工夫をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は、自分の使い慣れた馴染みの品を持ち込み、心地よい生活環境作りをされている。また、仏壇等も持ち込まれ、安心して過ごすことができるように配慮されている。		